

令和7年度 神栖市若手医師きらっせプロジェクト
地域医療トーク&トーク

日時：令和7年7月6日（日）14：00～

場所：かみす防災アリーナ 大会議室

【目次】

プログラム	2
グループディスカッション	
○テーマ1 ACP（人生会議）について	3～4
○テーマ2 産業都市に求められる医療について	5
○資料集	
市の概況	
人口・年齢、医師数などのデータ	6～7
アンケート調査等から	
市民が誇れるもの、目指すまちづくり	8
市民や企業が求める医療	9～10
神栖市固有の医療需要	
①産業都市ならではの求められる医療体制	11
②将来、神栖市で働く若手医師や医学生に期待すること	11
③労働災害	12
④農業・漁業・スポーツ交流都市関係	13～15
神栖宣言	16

【プログラム】

14:00-14:05 開会あいさつ

14:05-15:00 グループディスカッション
テーマ1 ACP（人生会議）について
テーマ2 産業都市に求められる医療について

15:00-15:15 休憩

15:15-15:20 石田市長あいさつ

15:20-15:40 グループディスカッションの発表

15:40-16:00 全体意見交換

16:00-16:15 休憩

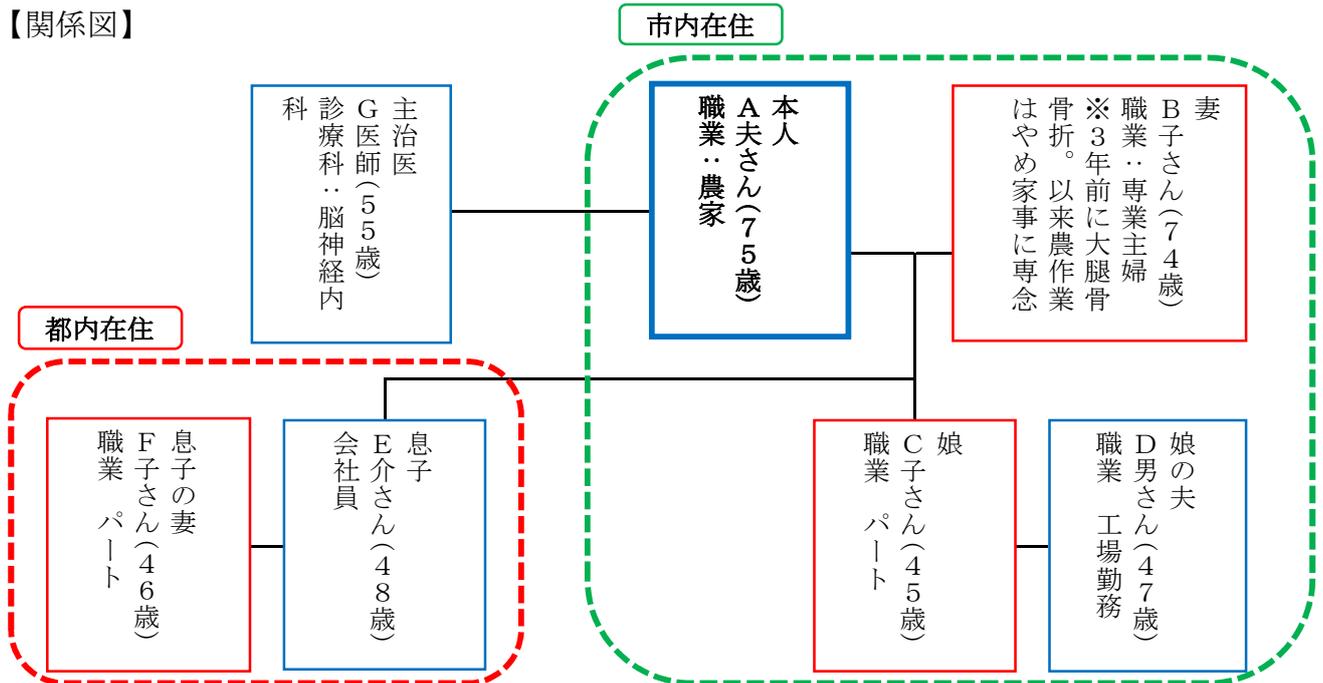
16:15-16:20 集合写真撮影

16:20-17:00 交流会

17:00 閉会

テーマ1 ACP（人生会議）について

【関係図】



- ① A夫さんは、行政から配布されたACPの冊子を見たのをきっかけに、妻と話し合いを始めた。A夫さんは、現役で農作業をこなしており、病気もしていない。平均寿命まではまだあるので、漫然と考えた。
「ピンピンコロリが本望だし、妻は足を悪くして自分を介護させるのは気の毒だから、何らの延命措置は不要と考え、死が間近になったら『治療を希望しない』、最後がせまったとき『何も希望しない』とノートに記した。」
この話を聞かされた妻と娘夫婦も、なんとなく同意した。
- ② 3年後、A夫さんが脳梗塞で救急搬送された。本人の意識がない中で、妻と娘夫婦は、ACPのことは全く思い浮かばず、とにかく病院の救急対応に頼っていた。病院でACPのことを尋ねられたが、死が間近になったとは思えず、ACPで同意した内容を口にするのを、妻も娘夫婦もためらってしまった。
- ③ A夫さんは退院して、以前と同じようにはできないものの、農作業にも復帰した。ある時、息子夫婦が帰省し、娘夫婦もそろっている中で、A夫さんはACPを思い出し、今度倒れたらACPどおり、延命措置はいらぬ旨を話した。通院の際、主治医にもACPで記したノートを見せ、同意を得ていることを話した。しかし、E介さんは「まだ若いし、長生きしてもらいたい。とことん治療を受けてほしい」と話した。それ以来、A夫さんは、ACPの内容に迷いが生じるようになった。
- ④ その後、A夫さんは「できるだけ治療を受けたい」「蘇生術も希望する」とノートを書き直し、それを主治医に示した。主治医は気持ちの変化を受け入れてくれた。
- ⑤ ところが数ヶ月後、入院している知人の見舞いに行った後、やっぱり家族への負担を考えると、最初に思った「死が間近になったら『治療を希望しない』、最後がせまったとき『何も希望しない』」という気持ちが強くなった。自分自身のことなのに、気持ちが固まらないこと、迷っていることを少し恥ずかしく思った。一方で、自分の寿命があとどれくらいなのか、病状がどうなっていくのか、皆目見当もつかなかった。本当にACPを決めることが必要なのかと疑問も感じた。

Q1 A夫さんと、どのように話をすればよいのでしょうか？

Q2 気持ちは変わるものなのにACPは本当に必要なのでしょうか？

Q3 家族はACPがないと、治療方針を決断できないのでしょうか？

テーマ2 産業都市に求められる医療について

Q4 神栖市にはどんな医療が求められるか考えてみよう！

(1) 資料p 8 – p 17を参照いただいたうえで、特に大切だと思うことは？

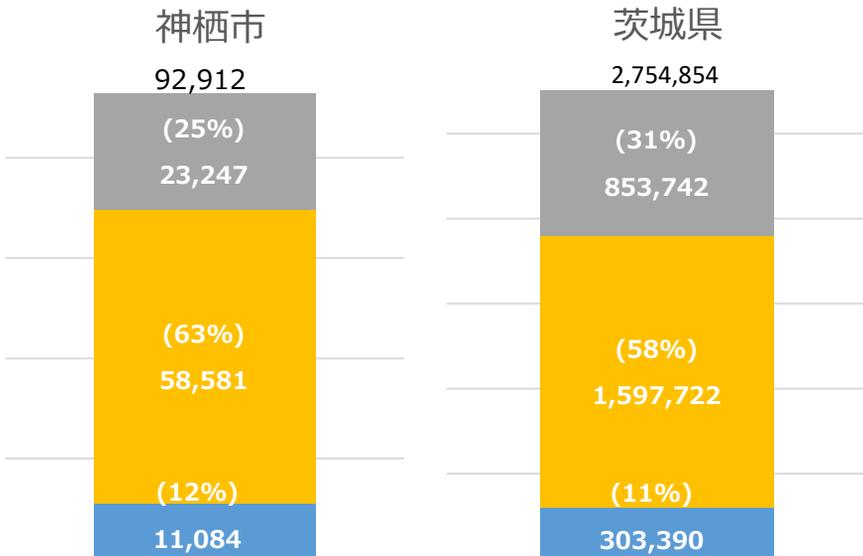
①どのような医療分野（診療科）や医療体制（サービス）が、特に大切だと思いますか？

②どのような医療分野や体制が、特に不足していると思いますか。また、力を入れてより充足させる必要があると思いますか？

(2) 医療体制の充実に向けて、それぞれの立場でどんな貢献が出来ると思いますか？

年齢3区分

0～14歳 15歳～64歳 65歳以上



合計特殊出生率

県内順位	H30～R4	
1位	神栖市	1.54
2位	つくばみらい市	1.53
3位	鹿嶋市、つくば市	1.49
—	茨城県平均	1.34
—	全国平均	1.33

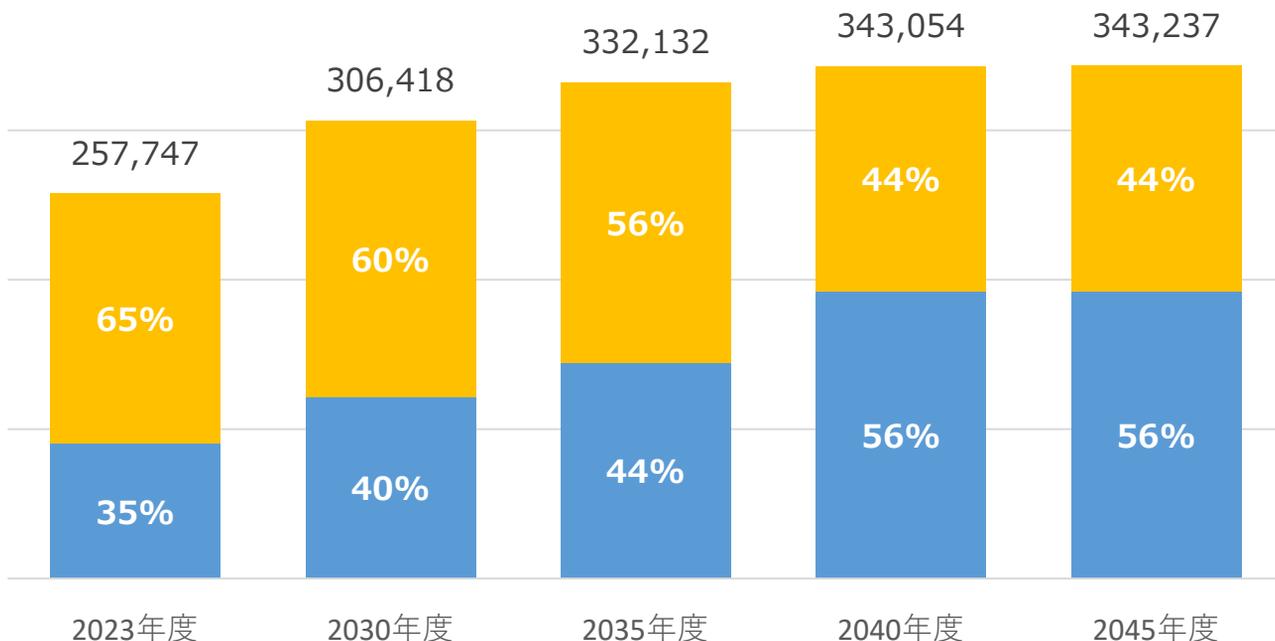
合計特殊出生率：1人の女性が生涯で出産する子供の数を推計したもの

出典：厚生労働省「平成30年～令和4年人口動態保健所・市区町村別統計の状況」(R6.4.19発表)

出典：茨城県常住人口調査 茨城県の年齢別人口(10月1日)
※年齢不詳は除く

神栖市延入院患者数推計（全疾病）

市内収容割合 市外流出割合 (人/年)

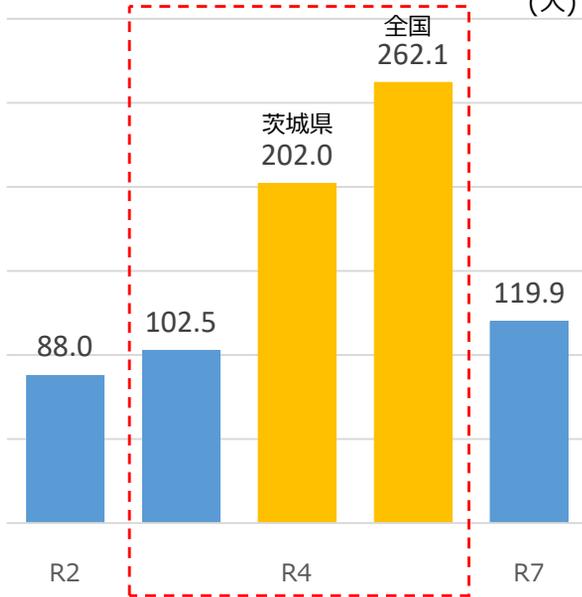


鹿嶋ハート 4床増床
白十字 20床提供再開

神栖済生会 56床増床 → 115床増床

市内常勤医師数

市内医療機関に従事する常勤医師数
人口10万人当 (人)



R2・R4 医師・歯科医師・薬剤師調査

R6 コード内容別医療機関一覧 (R6.4.1)、神栖市人口 (R6.3月末)

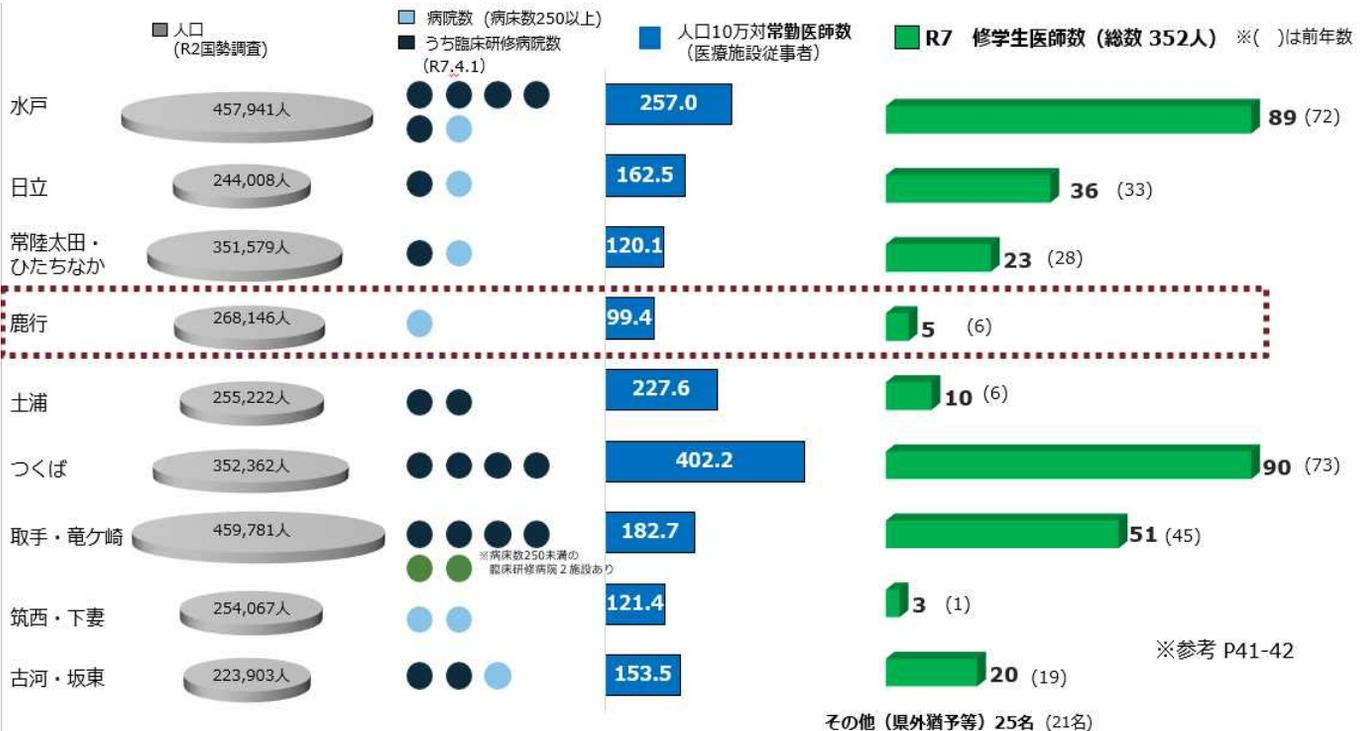
R7 コード内容別医療機関一覧 (R7.5.1)、神栖市人口 (R7.4月末)

医師偏在指数

二次医療圏	医師偏在指標	全国順位、前回との増減(全330医療圏)	区域分類
水戸	231.2	94 ↗ 6	多数
日立	140.3	308 ↗ 11	少数
常陸太田・ひたちなか	140.3	309 ↗ 8	少数
鹿行	137.2	315 ↘ -5	少数
土浦	184.4	204 ↘ -53	
つくば	337.7	23 ↘ -9	多数
取手・竜ヶ崎	173.3	235 ↘ -4	少数
筑西・下妻	153.0	284 ↗ 32	少数
古河・坂東	148.8	292 ↗ 20	少数

出典：第8次(前期)茨城県医療確保計画(R6.3)

茨城県修学生医師の二次保健医療圏別配置状況比較



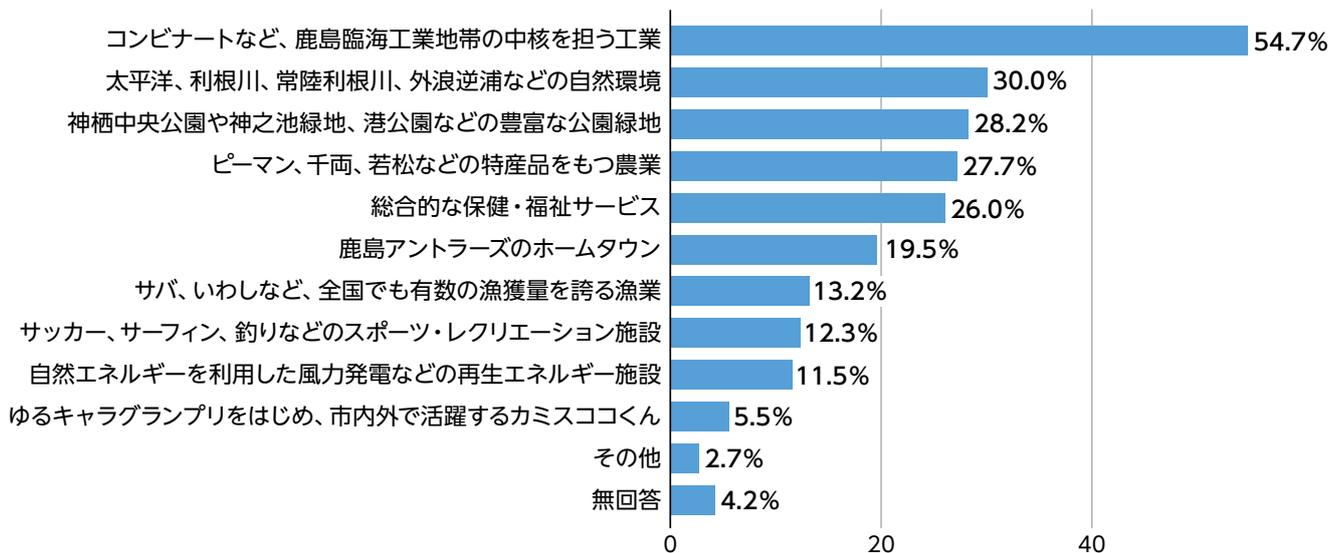
アンケート調査等から「市民が誇れるもの、目指すまちづくり」

調査内容

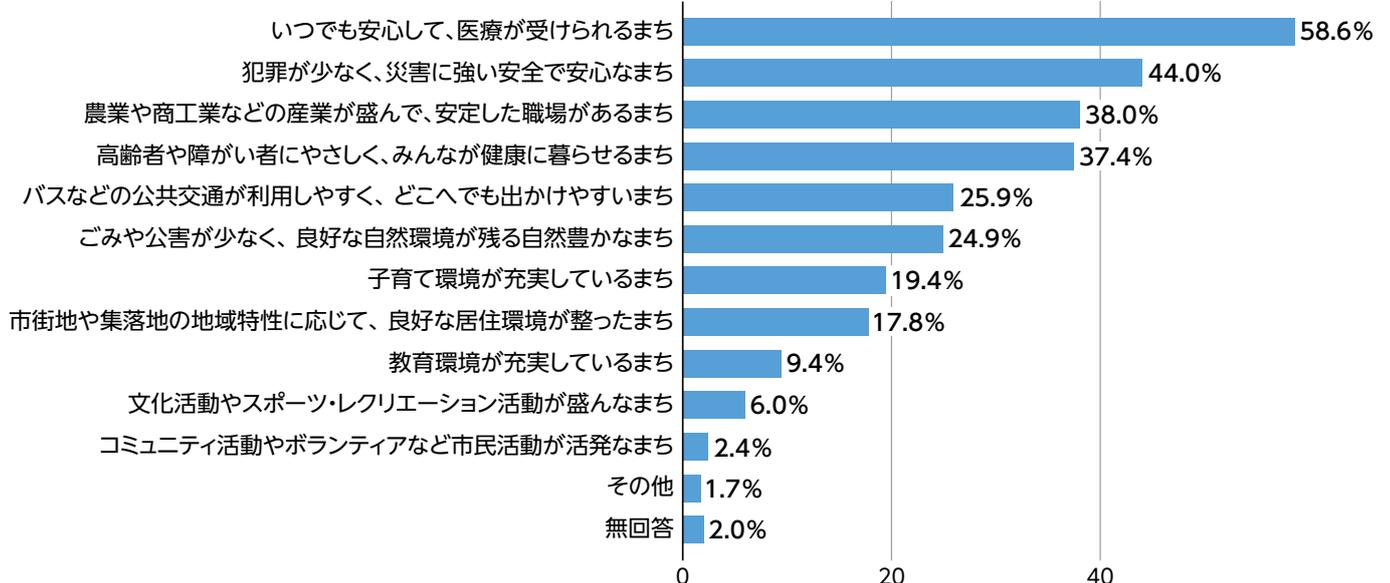
項目	内容
名称	令和3年度 市民アンケート調査
目的	第3次神栖市総合計画策定に当たり、広く市民等の意向把握を行うため実施したもの
対象者	神栖市在住の18歳以上の男女6,000人、無作為抽出
調査方法	紙面方式、WEB方式(インターネットによる配布・回答)の併用 無記名方式
調査時期	令和3年11月
回答数	回答数2,841票(紙面方式2,315票、WEB方式526票)、回答率47.35%

アンケート結果

Q1：神栖市の魅力、誇れる・自慢できるもの 〈回答数 2,841〉



Q2：今後、神栖市が目指すまちづくり 〈回答数 2,841〉



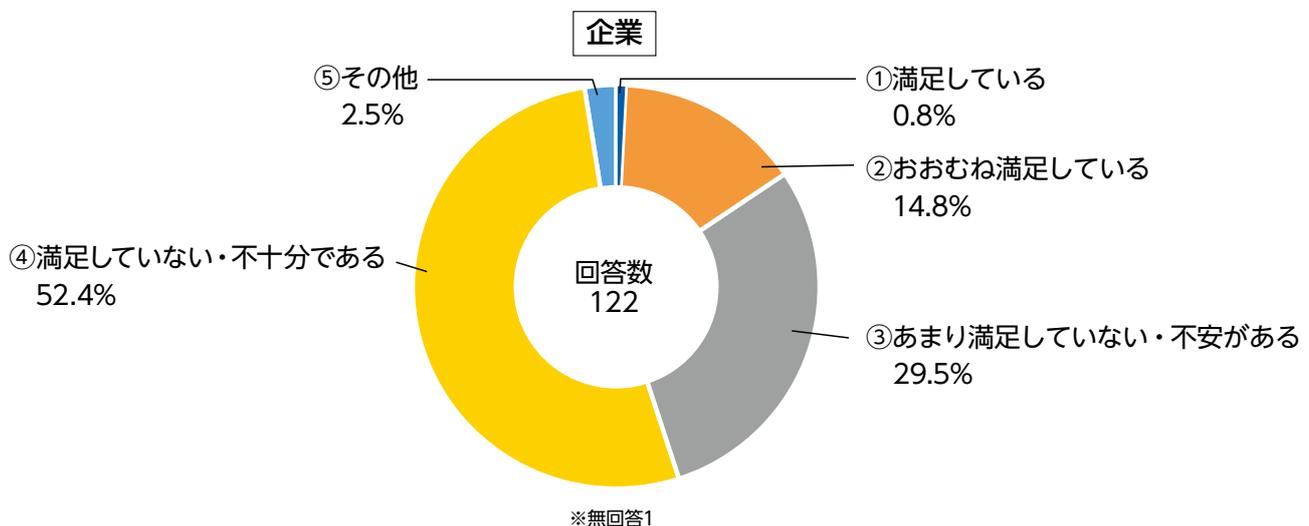
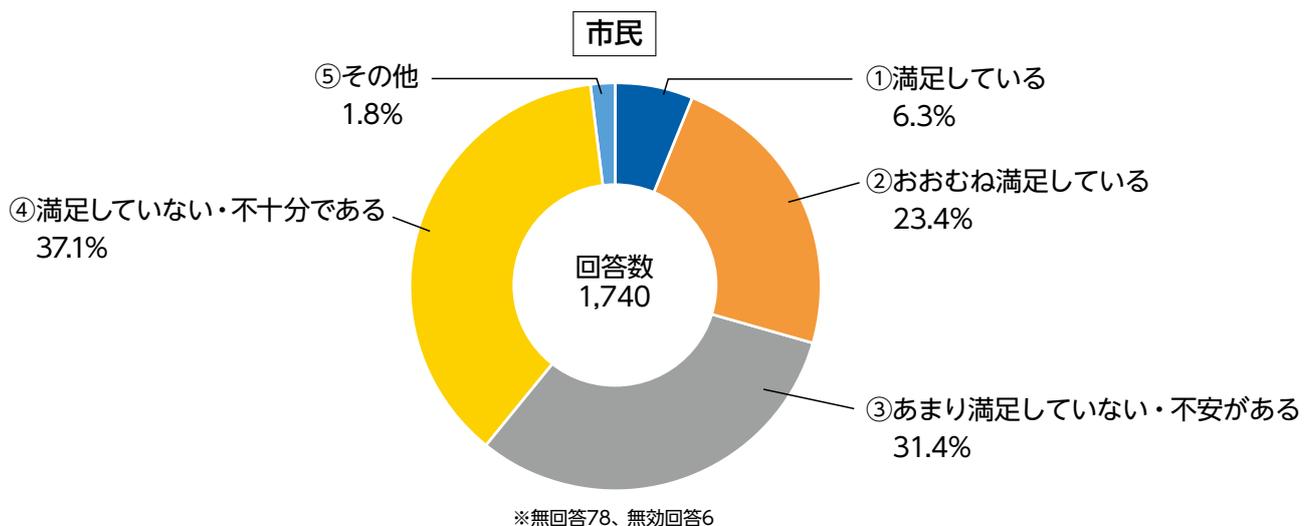
アンケート調査等から「市民や企業が求める医療」

実施内容

項目	市民意識調査	企業意識調査
名称	令和元年11月 医療体制に係る市民・企業意識調査	
趣旨	神栖市地域医療体制の検討に当たり、市民・企業に医療体制についてのアンケート調査を実施した。	
対象者	神栖市に在住する20歳以上の男女5,000人住民基本台帳から年代別・居住地域別に無作為抽出	コンビナート・工業団地に属する企業、全197施設
調査方法	郵送配布・郵送回収	
調査時期	令和元年11月28日(木)～令和元年12月12日(木)	
回答数	1,824 票、回答率 36.5%	123票、回答率62.4%

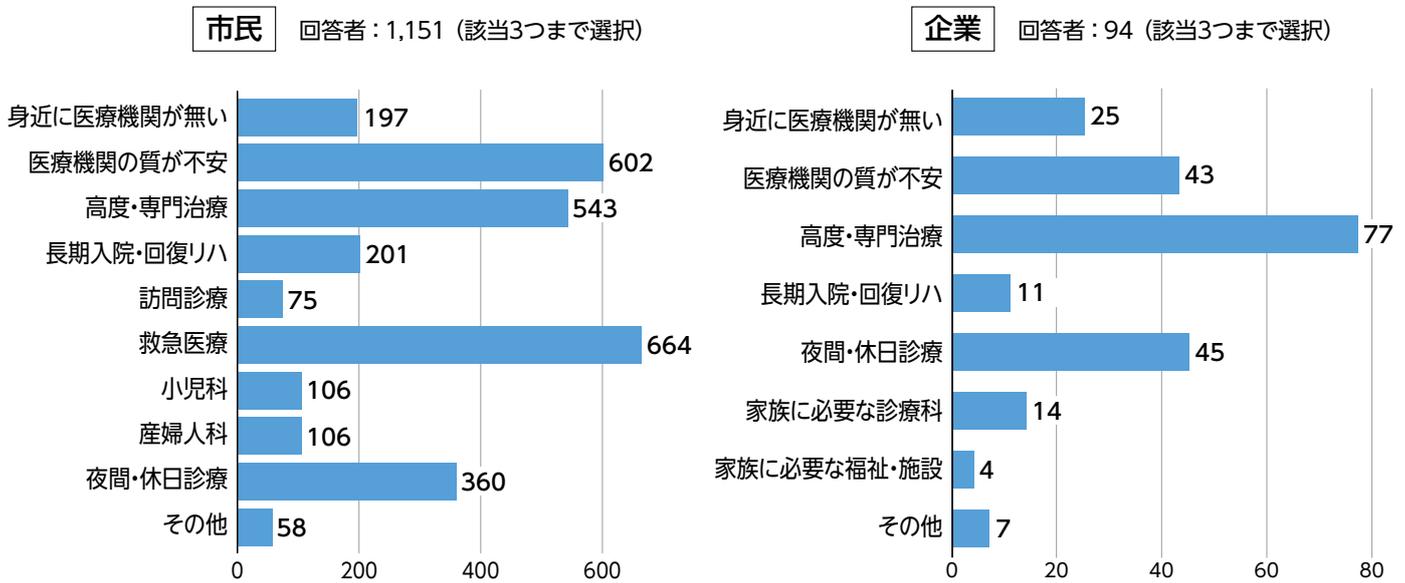
アンケート結果

Q1：お住まい・お勤めの地域の医療環境についてどのように感じていますか

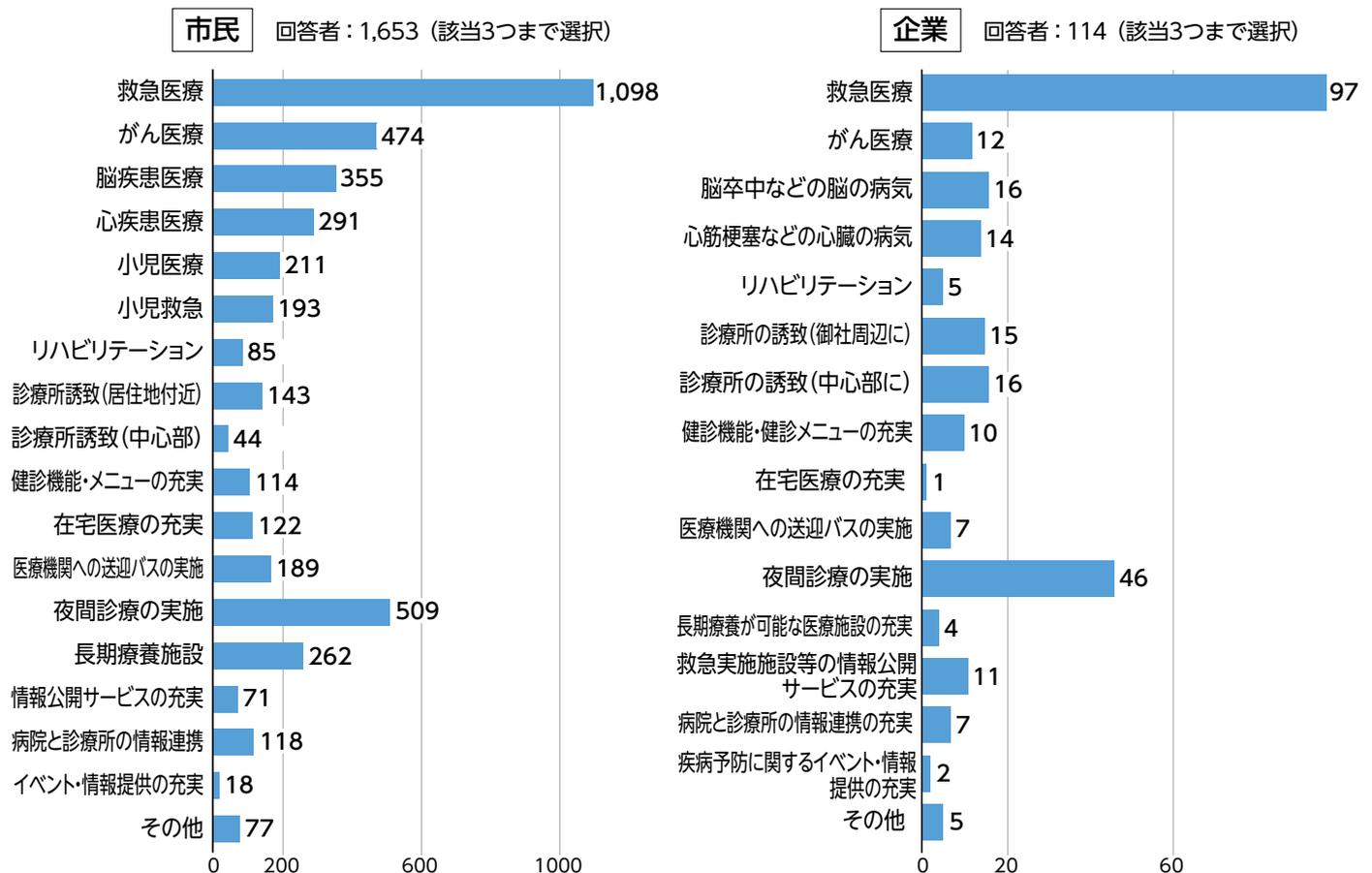


Q2：医療環境について不安がある、不十分であると思われる理由は何ですか

※Q1で、③または④を選んだ方のみ対象



Q3：神栖市の医療体制において、充実を希望するものは何ですか。



アンケート調査等から「神栖市固有の医療需要」

①産業都市ならではの求められる医療体制

今、企業は生き残り競争、地域間競争に打ち勝つため、必死。そのような中、医療体制の脆弱さはハンデ。神栖済生会新病院の整備及び白十字総合病院の強化を図ってほしい
(かみすの医療に関する市民と専門家の懇談会)

企業として、労働災害への対応強化を願っている。特に、熱傷・薬傷の救急は市内の受け入れが弱いので改善を
(企業・医療機関・行政連絡調整会議)

企業は24時間操業。夜間早朝など24時間の救急受け入れ体制の充実強化を求む
(企業・医療機関・行政連絡調整会議)

企業の若手社員にとって、妊娠出産、子どもの救急など、周産期や小児科の充実が特に重要
(企業若手社員とのまちづくり懇談会)

企業では、若いうちから当地域に配置するなど、定着促進につながるような人事管理に努めている。医療従事者の定着においても、若手医師を受入れることが重要。その点では、臨床研修病院をつくるのが当地域に必要ではないか
(企業・医療機関・行政連絡調整会議幹事会議)

鹿島労災病院の廃止を受け入れた市民の思いを忘れずに
(神栖市地域医療体制検討委員会)

行政や医療機関が懸命になって改善に向け努力していることが分かった。企業も要望するだけでなく協力できるよう努めていきたい
(企業・医療機関・行政連絡調整会議)

[懇談会や企業・医療機関・行政連絡調整会議等での意見]

②将来、神栖市で働く若手医師や医学生に期待すること

人間の命を身近に感じる職業だと思うので、ただ仕事をこなせばよいとは考えずにこの仕事に信念を持って取り組んで欲しい

患者さんの不安を取り除いて欲しい

患者さんと真摯に向き合ってくれる医師。自分も大切にできる医師

患者を差別しない。患者に寄り添う医師
患者へ親身に寄り添う医師であって欲しい
患者に寄り添ってくれる話しやすいドクターになってほしい

地域性を理解し信頼される医師

とにかく救急対応をお願いしたい

時間外であっても対応してくれる先生がいてほしい

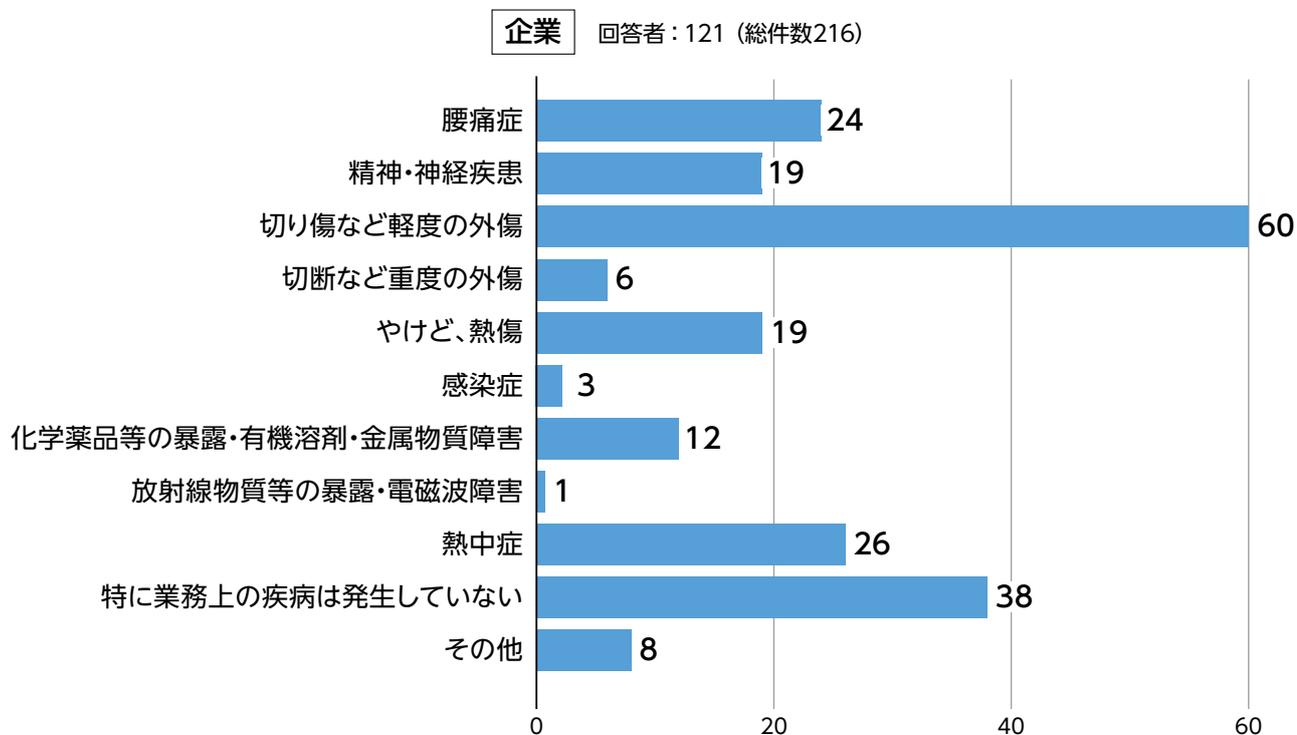
スポーツ合宿で訪れる学生が多く、現代の子ども達は、多様な状況があるため、若手医師や医学生に神栖市で働き経験を積んでいただきたい

神栖で学んで立派な医師に育ててほしい。将来、大いに活躍してほしい

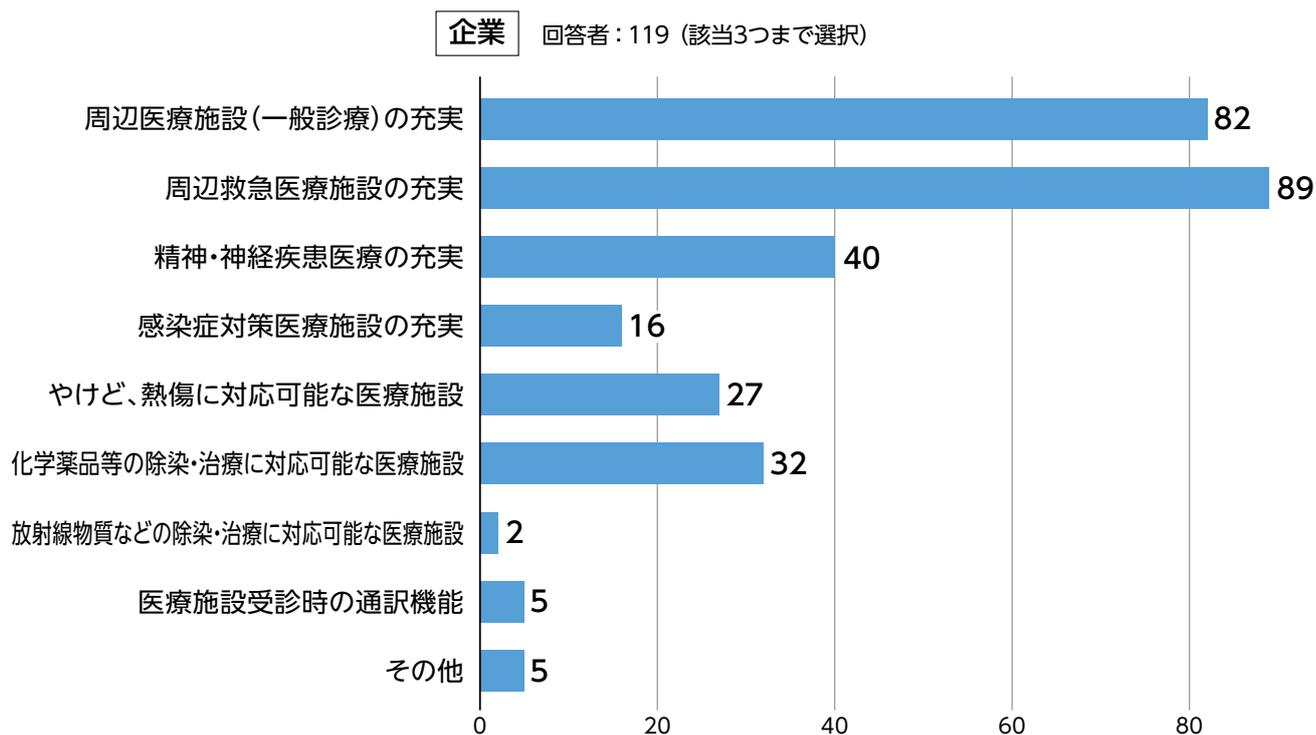
[令和6年8月 農業・漁業従事者、旅館業者アンケートからの意見]

③労働災害

Q1：過去3年間に発生した業務上の疾病



Q2：労働災害の対応として充実を希望するもの



④農業・漁業・スポーツ交流都市関係

本市の主要産業における医療ニーズを把握するため、令和6年8月にアンケート調査を実施した。

〈農業・漁業従事者アンケート〉 対象：20代~60代の従事者及び外国人労働者(技能実習生)の雇用主

Q1 業務に従事するうえで特有の疾患

疾患	具体的な場面
	農業従事者
切り傷、切断	<ul style="list-style-type: none"> ●収穫用はさみで手を切る ●トラクターメンテナンス中に手を挟む ●除草作業中に鎌で指を切る
骨折、打撲	<ul style="list-style-type: none"> ●ハウスの上から落ちる ●操作ミスでトラクターと木に足を挟まれる ●ハウスのパイプに頭をぶつける ●畑で転倒し膝を打撲
関節痛・腰痛	<ul style="list-style-type: none"> ●重い物で腰痛に(ヘルニア、座骨神経痛)
眼の疾患	
熱中症、低体温症	<ul style="list-style-type: none"> ●ハウス作業で熱中症
虫刺され、動物咬傷	<ul style="list-style-type: none"> ●蜂に刺される
精神疾患	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●農薬で湿疹になる

疾患	具体的な場面
	漁業従事者
切り傷、切断	<ul style="list-style-type: none"> ●魚のヒレで手を切った ●ウィンチ等でのロープ巻き上げ時に手を巻き込み、指先5mm程度を欠損。船上には色々なウィンチがあり、関連事故多い
骨折、打撲	<ul style="list-style-type: none"> ●船の高所から転落 ●氷を倒し足に当たる ●夜間に転倒して骨折 ●転倒し脇腹をローラーに強打し肋骨にひびが入る
関節痛・腰痛	<ul style="list-style-type: none"> ●漁獲物などを入れたカゴを持ち腰を痛める
眼の疾患	<ul style="list-style-type: none"> ●くらげが目に入り負傷
熱中症、低体温症	<ul style="list-style-type: none"> ●夏場の操業で熱中症になる
虫刺され、動物咬傷	<ul style="list-style-type: none"> ●エイ等による刺傷。選別作業中に魚のトゲや骨(死骸)等が誤って刺さる。油断し、消毒を怠ったことで思いがけずに腫れたり、化膿する
精神疾患	<ul style="list-style-type: none"> ●操業中のストレスによる
その他	

Q2 外国人労働者が医療を受けるときの課題

分野	具体的な場面
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ● 細かなニュアンスを伝えることが難しく、手術等の際「万一の場合」の説明に苦慮する ● インドネシア語には時制(過去、現在、未来)がないため、ニュアンスが曖昧になり誤解が生じやすい ● コミュニケーションが不安。組合の担当者が病院に行く際は対応してくれる。日本語で細かな症状を伝えることが難しい。問診表の記入が難しい ● 受診時に使用する言語：日本語、英語、インドネシア語 ● 受診時に使用するツール：スマホアプリ、外国人先輩の付添
生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康診断の経験が無いいため、採血で気を失う者が少なからずいる。同様にインフルエンザ等の予防接種を怖がる者が多い ● 揚げ物料理が多いためか、高コレステロール、高脂血症の者が多い ● 辛いものを好む傾向のためか、痔の者が少なからずいる ● 耳掃除をする習慣がないため耳垢がひどく、来日前の健康診断で耳垢除去の処方を受ける者が多い ● 隠れ結核患者が少なからずいる
宗教	<ul style="list-style-type: none"> ● 食生活では、豚肉、アルコールが禁忌。豚肉そのものだけでなく、豚エキスが使用されるブイヨン、ゼラチン、ラードも使用不可。豚肉を見るだけで嫌悪感を抱く者、豚肉と同じ器具を使って調理された食べものを忌避する者も ● アルコールについては、ドリンクだけではなく、醤油、味醂など調味料として使用されるものも不可 ● インドネシアのイスラム教徒は若干ルーズなところはあるが、人それぞれであるためケガや疾病等による入院時には配慮が必要
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 病院までの交通手段がないため、受診が難しい ● 薬の理解が難しい ● 外国人は、虫歯の治療をしていない人が多い傾向がある。遠洋漁業に出てしまうと、身近に歯の治療を受けられなかったり、抜歯が必要となった際には寄港地やそのタイミングについて思い通りに対応することが難しいときがある ● 健康診断を受ける習慣がないため、重大な病気やアレルギーが隠れていることがある。想定外に重症化するとか、アナフィラキシーショックを起こすとか、慌てるケースもある

〈旅館業者アンケート〉 対象：スポーツ合宿受入先のホテル2件、旅館4件

Q3 スポーツ合宿の宿泊客に起こる疾患

疾患	具体的な場面
切り傷、切断	●救急受診が必要な切り傷が頻繁に発生(特にサッカー団体の大会や練習試合)
骨折、打撲	●高校生の頭部出血 ●小学生がラグビーのタックルで脳しんとうに
関節痛・腰痛	●選手が足を捻挫 ●朝の散歩中に足を捻挫し、気分が悪くなり救急車を呼んだ
中毒	●大学生が懇親会で急性アルコール中毒になり救急搬送
熱傷・薬傷	●体育館で転倒し、床との摩擦で熱傷を負った
眼の疾患	●野球ボールが当たり眼を負傷
熱中症、低体温症	●熱中症が多発
虫刺され、動物咬傷	●スズメバチに刺されて救急要請
精神疾患	●小学生が持病のパニック症状を発症(保護者と相談して合宿は続行)
その他	●冬期合宿時に、発熱症状を訴えるお客さんが多発

Q4 医療について困っていることや特色など

神栖市自体がスポーツ合宿を提唱しているのにケガを受け入れる病院がないことは大きな問題である

スポーツ合宿の市内宿泊者数は、ハイシーズンで約3,000人/日であり、病気やケガのリスクが高まるため、市内医療体制の整備が課題である

切り傷や捻挫で当番医に連絡したが外科不在で受診不可となり、専門医不足を感じた。特に整形外科は予約診療が通常で、突発の際に受診できない所が多くて困っている

スポーツ合宿の多くは遠征であるため、ケガや病気の際には市内病院で応急処置を受けた後に、地元に戻って再受診が必要となる

小学生の打撲や脳しんとうが発生する。近くの病院で受け入れてもらえることもあるが、救急車を呼んでも1時間以上受け入れ先病院が決まらないこともある

アレルギーのお客さんが増えているため、事前確認に努めている。栄養士や専門医の充実をお願いしたい

食中毒、感染症防止に注意を払っており、手洗い、アルコール消毒、ビニール手袋の着用に努めている

神 栖 宣 言

(全 体)

地域医療を志す医師が思う存分活躍できる環境づくりを進めるため、

- 地域医療の舞台となる地域の様々な主体は、互いに尊重し合い、それぞれの思いに触れよう
- 地域医療を志す者、牽引する者、サポートする者、支えられる者、それぞれの持てる力を引き出し、高め合おう。そのためにも、本音で話し合える場を継続して持とう。特に、地域医療を志す者を育て、励まし、鍛えるのは市民であることを再認識しよう
- 市民、医療機関、行政、学生、指導者は、このシンポジウムで得た感動を忘れず、神栖宣言の趣旨を心に刻み、地域医療を志す者が学び、働き、活躍するフィールドづくりに全力を尽くそう

(神栖市)

神栖市は、神栖市若手医師きらっせプロジェクトを推進し、地域に隠れている様々な思いを、具体的でポジティブな力に変えて発信していこう。発信に当たっては、市民の思いを踏まえ、この地でのやりがいを明示するとともに、情報を受け止める医師に自分が求められていることを伝えていく

地域の関係者が一つに繋がっていけるよう、大人の事情はさておき、思いをぶつけ合う場を来年度も開催する

医療機関は院内のスタッフが信頼し合い、チームとなって働き、生きがいを感じられる環境づくりに全力を尽くす



市HP

